

校長室へようこそ（陸上競技（走幅跳） 関東大会出場!ほか）

ば ば らいあ
馬場 莉碧さん（陸上競技部3年）が、関東大会（6月）の結果に加え、夏の関東選手権大会（8月）への意気込みを含め、訪問してくれました。当日の様子をお伝えします。



○ 馬場さんは、県大会（5月）において、見事5位入賞し、関東大会（6月）に出場しました。同大会において入賞とはなりませんでした。当日、自己ベストを更新し、さらに、その後出場した県選手権大会（一般参加あり）において、見事2位の成績を収め、関東選手権大会（8月）への出場権を獲得しました。これまでの活動を振りかえっていただきたいと思います。

【陸上競技・走幅跳種目の成績】

☆ 令和8年度関東高等学校陸上競技大会出場

[令和8年6月14日 関東高等学校体育連盟ほか主催]

☆ 第99回関東陸上競技選手権大会出場

[令和8年8月21日 関東陸上競技協会主催]

<関東大会（6月）を振り返って、どんな大会でしたか>

- 今回は昨年度に続き2回目の出場※ということもあって、自分の中で少しだけ余裕をもって大会に臨むことができました。早めに現地入りをさせていただき、本番までの間、心と体を整えて、万全な状態で臨めたというのがとても良い点だったなと思います。

※ 昨年度、関東新人大会（令和7年10月）に出場

<大会当日は、大勢の仲間が駆け付けてくれた聞きました。みんなの声援はいかがでしたか。>

- 自分にとってもその声援があつてこそその「自己ベスト更新」だと思います。決して自分の力だけでなく、みんなの応援の力があつたからこそ、関東大会という大きな舞台で記録を残せたのではないかと考えています。

<大会当日、大勢の観客が見守る中で、どんな心境で出番を待っていたのですか。>

- 今回はあまり緊張するより、楽しみながら臨むという気持ちの方が勝っていたかと思います。他の選手の跳躍や走りを見て学んだり、すごいなって感心したりしながら、退屈することなくワクワクしながら待っていました。以前は緊張してばかりでしたが、決勝になると、周りの速い選手が気になり、全く余裕がなく、ただ「呼ばれたら跳ぶ」という感じでした。

<何か他に、ゆとりを持って出番に臨むための秘訣はありますか。>

- 今回は顧問の先生やコーチにも支えてもらいました。また、付添の仲間のおかげで、自分一人でネガティブなこと考えたり悩んだりすることなく、いつも通りの自分で大会に臨めたことが大きかったなと思っています。

<他の選手の動きなどを見て何か得るものありましたか。>

- 集まる選手の皆さんの顔つきが違っていると感じました。発するオーラや、秘めた覚悟なども垣間見る中で、自分は何か特別なことをやって来たのだろうか、これまでの姿勢を省みることもありました。やはり、上位に進む選手の皆さんは体格が違出し、恐らくアスリートとしての食事制限もしながら体をしっかり作ってきている人たちなのかなと思いました。

<ちなみに、陸上競技は(特に走り幅跳びは)いつから始めたのですか。>

- 本格的に始めたのは中学校からです。中2からは短距離を中心に、その後、高一の秋冬から高二にかけて、走幅跳を中心に組み込みました。小学校ではクラブなどには所属せず、遊びで走り回っていました。幼いころから、親や周りの人に足が速いって褒められるのが好きな子でした。文化部か陸上競技部かの二択でしたが、球技の得意な兄の影響もあり、陸上競技を選びました。

<顧問の先生やコーチの皆さんに何かメッセージはありますか>

- これまでお世話になった顧問の先生が他の高校に異動となった時、心的なダメージを受けて、周りに心配をかけたことがありましたが、そんな自分を見捨てることなく、いつも選手の視点で物事を見ていただきました。関東大会に向けてプレッシャーを感じて焦ってしまうこともあったのですが、普段の練習から、「大会のことは考えないで、楽しんで跳んでいいんだよ」と声をかけてくださったことが心の支えとなってました。

<壮行式(5月)でも応援いただいた全校生徒の皆さんにメッセージをお願いします。>

- 6月の大会では、インターハイ(全国大会)に出場することはできませんでしたが、高校生として関東大会に3回出場することはなかなかできるものではないと思うので、8月もベストを尽くして笑顔で終われるように頑張ります。

<顧問の北教諭にインタビューします。馬場さんはどんな選手ですか。>

- 努力ができる選手だと思っています。高校二年生の総体に遡りますが、県大会(5月)では実力を出し切れず、あと一步のところまで関東大会出

場を逃してしまったことがありました。その挫折を自分の中でプラスの力にかえて、夏休み合宿をはじめ、きつい練習にも取り組みながら、新人戦大会(9月)で5位の成績を収め、(本来3位までしか関東に行くことができないのですが、他のシード選手が抜けたこともあり)初めて関東大会出場を手に入れました。

そのため、今回の県大会(5月)では、実力で規定通りの結果で関東大会出場を掴みたいという強い決意で臨んでいました。また、顧問が変わることに対する心境変化にも耐えながら、地道に努力し続けて、常に感謝の意識を持ち続け、プレッシャーにも耐えながら頑張れる選手というのが馬場選手ではないかと思っています。

<綾高同窓会にも支援いただきました。陸上競技部を代表して、一言メッセージをお願いします。>

- 今回は私個人の大会出場にあたり、資金的にも援助をいただき、本当にありがとうございます。自分のためにここまでしてくれる方々がいると言うことは、とても恵まれていることだと思いますし、とても嬉しく思っています。ありがとうございました。

<最後に、関東選手権(8月)に向けた意気込みをお願いします。>

- 高校生としての最後の大会、自分の三年間の集大成なので、全力尽くして笑顔で頑張りたいと思います。

- 今後の活躍に益々期待を寄せています。馬場さん、ありがとうございました。

